

CASBEE-広島（2010年ver.1）
中電プラント(株)広島支社

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
■ベース評価ソフト： CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
			評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質							2.7			
Q1 室内環境				0.34			3.0			
1 音環境			2.2	0.15		-	2.2			
1.1 騒音	1 暗騒音レベル		3.0	0.40		-				
			3.0	1.00		-				
	設備騒音対策			-		-				
	1.2 遮音		1.6	0.40		-				
	1 開口部遮音性能		2.0	0.60		-				
			1.0	0.40		-				
				-		-				
				-		-				
	1.3 吸音		2.0	0.20		-				
2 温熱環境			3.1	0.35		-	3.1			
2.1 室温制御	1 室温設定	外皮性能計算より	3.2	0.50		-				
			3.0	0.38		-				
	自然通風・自然換気対策			-		-				
	3 外皮性能		4.0	0.25		-				
			3.0	0.38		-				
	4 ゾーン別制御性			-		-				
				-		-				
				-		-				
				-		-				
	2.2 湿度制御		3.0	0.20		-				
	2.3 空調方式		3.0	0.30		-				
3 光・視環境			3.1	0.25		-	3.1			
3.1 屋光利用	1 屋光率	屋光率計算より	3.6	0.30		-				
			4.0	0.60		-				
				-		-				
			3.0	0.40		-				
	3.2 グレア対策		3.0	0.30		-				
	2 屋光制御			-		-				
			3.0	1.00		-				
	3.3 照度		3.0	0.15		-				
	1 照度		3.0	1.00		-				
				-		-				
	3.4 照明制御		3.0	0.25		-				
4 空気質環境			3.3	0.25		-	3.3			
4.1 発生源対策	1 化学汚染物質	告示対象外F☆☆☆☆の建材をほぼ全面に使用	4.0	0.50		-				
			4.0	1.00		-				
				-		-				
				-		-				
	4.2 換気		2.3	0.30		-				
	1 換気量		3.0	0.33		-				
			3.0	0.33		-				
			1.0	0.33		-				
				-		-				
	4.3 運用管理		3.0	0.20		-				
	1 CO ₂ の監視		3.0	0.50		-				
			3.0	0.50		-				
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	2.9			

	2.3 設備の更新				-		-	
	2.4 信頼性			3.2	0.19		-	
	1	空調・換気設備	可能な限り配管系統をバルブ等で区分けしている 電源空間は地下空間に設置していない	3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
	3	電気設備		3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	精密機器は地下空間に設置なし、光ケーブル・メタルケーブルの採用	4.0	0.20		-	
	3 対応性・更新性			3.1	0.29		-	3.1
	3.1 空間のゆとり			3.4	0.31		-	
	1	階高のゆとり	壁長さ比率の算定より	3.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.38		-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
	6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.36	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制				4.0	0.13		-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.25		-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化				CEC/L-0.6(事務所)0.5(工場) ERR=15	4.0	0.37	-	4.0
4 効率的運用				3.0	0.25		-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水				4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水再利システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.63		-	3.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				OAフロア、可動間仕切壁を採用	4.0	0.24	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22		-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68		-	
1 消火剤				4.0	0.33		-	
2 断熱材				3.0	0.33		-	
3 冷媒				3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)と同等	3.8	0.33	-	3.8
2 地域環境への配慮				2.8	0.33		-	2.8
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減				2.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-	